

都市再生整備計画事業 事後評価シート
足助香嵐溪地区

平成26年3月

愛知県豊田市

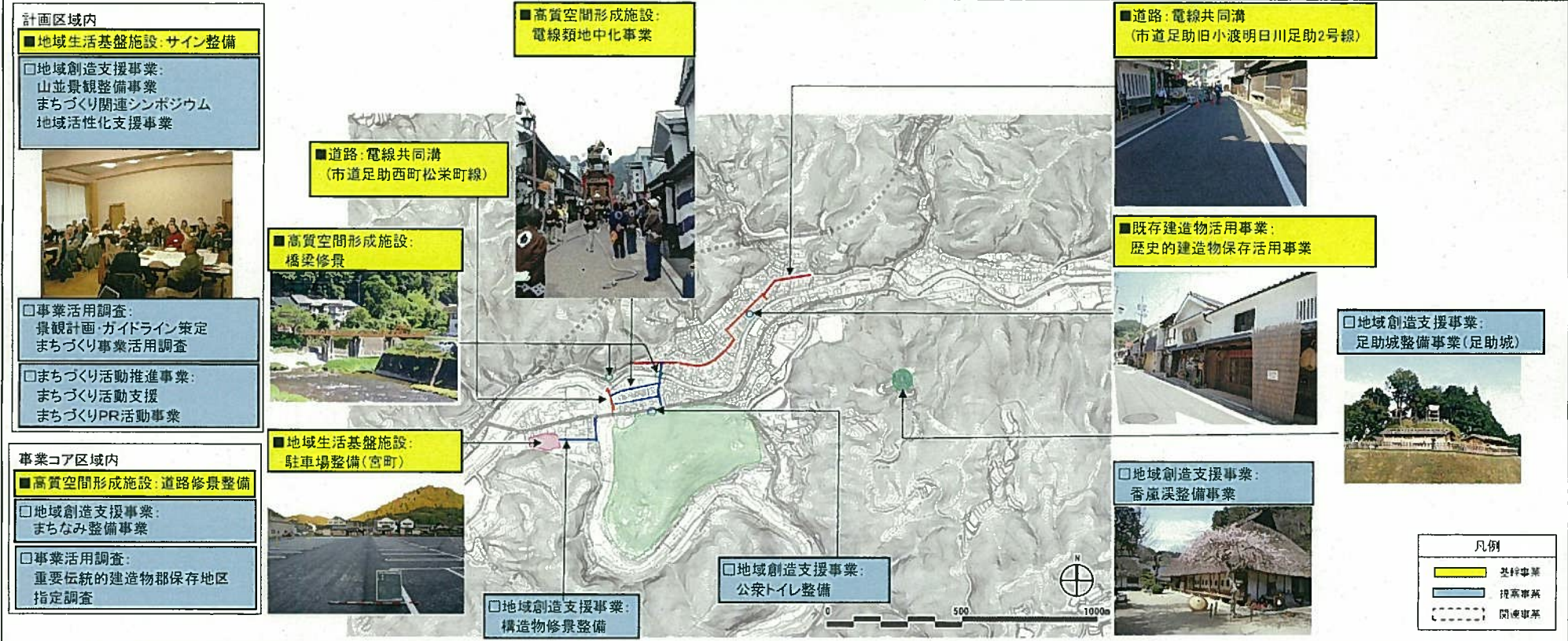
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名		愛知県		市町村名		豊田市		地区名		足助香嵐渓地区			面積		540ha						
交付期間		H21 ~ H25年度		事後評価実施時期		H25年度		交付対象事業費		838 国費率		0.400									
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 【道路】市道足助旧小渡明川足助2号線、市道足助西町松栄町線【地域生活基盤施設】駐車場整備事業、情報板(サイン整備)【高質空間形成施設】緑化施設等(道路修景整備)、橋梁修景整備【既存建造物活用事業】歴史的建造物保存活用事業 【地域創造支援事業】香嵐渓整備事業(香嵐渓一帯)、山並景観整備事業、足助城整備事業、まちなみ整備事業、構造物修景整備、公衆トイレ整備事業(西町第一駐車場)、まちづくり関連シンポジウム開催、地域活性化支援事業【事業活用調査】重要伝統的建造物群保存地区指定調査、景観計画・ガイドライン策定、まちづくり事業活用調査【まちづくり活動推進事業】まちづくり活動支援、まちづくりPR活動事業																		
	当初計画から削除した事業		事業名 【道路】①落谷橋、②市道足助宮町香嵐渓線、③市道足助西町中央線、④市道足助西町蔵ノ前線、⑤市道足助西町新町線、⑥市道足助新町田町線、⑦市道足助本町中央線、⑧市道足助田町塩ノ沢中立線、⑨市道(仮)旧小渡明川足助線、⑩市道(仮)旧大沼足助線【地域生活基盤施設】⑪緑地広場(まちなみ整備)、⑫緑地広場(支所前交流広場整備)【高次都市施設】⑬観光交流センター				削除/追加の理由 ①、②、③、④、⑤事業種別の高質空間形成施設への移行 ⑥、⑦、⑧、⑨、⑩他事業箇所と統合 ⑪財政状況による精査により削除 ⑫関連事業延期による削除 ⑬土地所有者交渉難航による延期のため削除				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 ①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩:事業種別移行又は統合のみであり、指標への影響はない ⑪、⑫、⑬:数値指標への影響があるため、新指標3の目標値に加味した										
	新たに追加した事業		事業名 【高質空間形成施設】電線類地中化事業				事業種別の道路事業からの移行				事業種別移行のみであり、指標への影響はない										
	交付期間の変更		当初変更		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響																
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標		1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期						
			基準年度		目標年度		モニタリング		評価値		達成度										
	指標1		街なみの満足度		%		37.2 H18 51.5 H25		-		51.5		○		あり		自然の保全、歴史的町並みの保全修景と共に、防災や橋梁耐震化等も含めた生活環境を改善する総合的な事業に対する住民の満足度が確認できた。これにより、地域住民にとっても安全・安心で快適な生活感ある暮らしを感じるまちづくりを実現することができた。		H26年11月		
	指標2		旧足助町中心市街地内の歩行者数		人		970 H19 1,358 H25		1,319		2,147		○		あり		旧市街の歴史的な町並み景観づくりや来訪のための道路や駐車場整備等により、来訪者数は相対的に増加し、歴史・文化・自然・景観を活かした、古くて新しいまちづくりを一步前進させることができた。		H26年11月		
指標3		歴史的町並みの観光客数		人/年		30,057 H18 30,057 H25		20,990		18,845		×		なし		●		旧市街の歴史的な町並み景観づくりや来訪のための道路や駐車場整備等により、旧市街の歩行者数は増加し、観光来街は増加している。しかし、観光客立ち寄り先としての足助中馬館の入館者数は下げ止まらず、目標値を達成できなかった。		H26年7月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標		1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期						
			基準年度		目標年度		モニタリング		評価値		達成度※1										
	その他の数値指標1		旧街道(塩の道)道路景観の取り組みに対する満足度		%						65.5				市道足助旧小渡明川足助2号線、市道足助西町松栄町線等の道路事業に関連して、電線共同溝と共に路面の道路交通標示の削減等を実施し、街並みの中でも公共道路空間の景観づくりに取り組んだが、住民の高い満足度が得られた。これにより、歴史・文化・自然・景観を活かした、古くて新しいまちづくりを一步前進させることができた。		H26年11月				
	その他の数値指標2		観光・商業等活力のあるまちづくりに対する満足度		%						76.9				指標3「足助中馬館の入館数(歴史的町並み地区内)」は減少し続けている一方で、賑わいのため、観光地の整備、来客利便のための駐車場整備と共に、個々の建物ファサード修景、住民によるまちづくり活動の支援を実施したため、住民の高い満足度が得られた。これにより、観光・商業と連携した、活力ある共働まちづくりの目標を達成することができた。		H26年11月				
その他の数値指標3																					
4)定性的な効果発現状況		*まちづくり関連シンポジウムに協力した地域中学生等が、改めて足助の町並みについて理解を深め、自分達の町に誇りを持つようになった																			
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等										
	モニタリング		中間評価・モニタリングを実施し事業の進捗状況や成果を把握し、事業を円滑に執行管理				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●										
	住民参加プロセス		*まちづくり団体によるまちづくり活動(たんころりん、中馬のおひなさん、花かさり) *官民学一体となったまちづくり				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●										
	持続的なまちづくり体制の構築		*まちづくり団体によるまちづくり活動(たんころりん、中馬のおひなさん、花かさり) *支所を窓口とする行政と住民のパートナーシップを継続したまちづくり活動				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●										

様式2-2 地区の概要

足助香嵐渓地区(愛知県豊田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標:『大自然と歴史を受け継ぎ、暮らしの香り漂う生活空間の創造』 目標1: 歴史・文化・自然・景観を活かした、古くて新しいまちづくり 目標2: 安全・安心で快適な、生活感ある暮らしを感じるまちづくり 目標3: 観光・商業と連繋した、活力ある共働まちづくり	街なみの満足度	単位: %	37.2 H18	51.5 H25	51.5 H25
	旧足助町中心市街地内の歩行者数	単位: 人	970 H19	1,358 H25	2,147 H25
	歴史的町並みの観光客数	単位: 人/年	30,057 H18	30,057 H25	18,845 H25
	旧街道(塩の道)道路景観の取り組みに対する満足度	単位: %	H	H	65.5 H25
	観光・商業等活力のあるまちづくりに対する満足度	単位: %	H	H	76.9 H25



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家や空き店舗活用等、街道沿いの雰囲気や当該地特有の街なみについて、生活を活かしたままの保全を進めることができた ・若い世代の足助地区の良さ、観光、景観維持に対する理解が浸透し、誇りを持つつつある ・香嵐渓の自然景観、足助城の修復、旧街道の街並み保全や、駐車場・案内情報板等により、観光に繋がる一定の魅力化を前進させることができた ・公園、広場、下水道等生活環境の整備、老朽化した橋梁の再整備等により、生活環境を改善した ・空き家・空き店舗が残っており、今後も活用が継続的に必要である ・周年型観光へ向けた夏・冬季の魅力づくりは、引き続き今後の課題として残されている ・旧市街、塩の道における重伝建地区保全の活用や、住民によるイベント等の自主的な検討が、今後の課題として残されている
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・町並み保全として、住民体制による空き家・空き店舗活用の継続、景観ガイドラインに基づく修繕や活用が必要である ・まちづくり協議会活動を継続し、若い世代も含め、町並みに関する啓蒙を推進する。また、観光、景観維持の継続、強化や観光客誘導方策を検討していく ・中馬館の非展示資料の活用、バス利用可能な駐車場、食べものの改善やトイレ不足の解消等魅力の向上について、まちづくり協議会で検討していく ・塩の道の歴史的町並み、重要伝統的建造物群保存地区のPR、駐車場等を含む来街アクセスの利便性のPRを推進する ・安全で安心な生活環境のため、危険箇所等の改善について検討する

都市再生整備計画事業 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9—有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		指標3.観光客数 指標4.生活環境の満足度	指標3.足助中馬館の入館数(歴史的町並み地区内) 指標4.(削除)	指標3: 観光客数は毎年の紅葉の状況により数万人単位で変化するため削除し、自然環境によらず整備効果を計る指標として足助中馬館の入館数(歴史的町並み地区内)へと変更する 指標4: 従前値の根拠のアンケート内容が、交付金事業から削除した水質改善、公園・広場整備状況に関する内容であったため、成果測定に適合しなくなり削除する
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への 影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道足助旧小渡明川足助2号線	131	電線共同溝L=510	246	電線共同溝L=1,000m	地元協議等による精査による路線延長の追加による事業費増	数値指標への影響があるため、新指標3の目標値に加味した	●	
道路	市道足助西町松栄町線	19	電線共同溝L=70m	54	電線共同溝L=70m	精査による事業費増	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	
道路	落合橋	95	L=34、橋梁整備	—	—	事業精査により橋梁整備から橋梁修景整備に変更のため削除	事業種別の変更のみであり、数値指標への影響は無い		
道路	市道足助宮町香嵐溪線	55	電線共同溝L=210	—	—	道路事業から高質空間形成施設への移動	事業種別の変更のみであり、数値指標への影響は無い		
道路	市道足助西町中央線	45	電線共同溝L=170	—	—	道路事業から高質空間形成施設への移動	事業種別の変更のみであり、数値指標への影響は無い		
道路	市道足助西町蔵ノ前線	47	電線共同溝L=180	—	—	道路事業から高質空間形成施設への移動	事業種別の変更のみであり、数値指標への影響は無い		
道路	市道足助西町新町線	41	電線共同溝L=160	—	—	道路事業から高質空間形成施設への移動	事業種別の変更のみであり、数値指標への影響は無い		
道路	市道足助新町田町線	9	電線共同溝L=30	—	—	本路線を削除し、市道足助旧小渡明川足助2号線に追加(L=30m→0m)	事業区間の変更のみであり、数値指標への影響は無い		
道路	市道足助本町中央線	9	電線共同溝L=30	—	—	本路線を削除し、市道足助旧小渡明川足助2号線に追加(L=30m→0m)	事業区間の変更のみであり、数値指標への影響は無い		
道路	市道足助田町塩ノ沢中立線	9	電線共同溝L=30	—	—	本路線を削除し、市道足助旧小渡明川足助2号線に追加(L=30m→0m)	事業区間の変更のみであり、数値指標への影響は無い		
道路	市道(仮)旧大沼足助線	6	電線共同溝L=20	—	—	本路線を削除し、市道足助旧小渡明川足助2号線に追加(L=20m→0m)	事業区間の変更のみであり、数値指標への影響は無い		
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	駐車場整備事業	22	宮町・西町第1・西町第2、A=1.1ha	46	宮町A=0.8ha、料金を整備を含む	財政状況変化による精査により事業箇所を縮小、及び事業費増	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	
地域生活基盤施設	緑地、広場 まちかど整備	26	N=3箇所	—	—	財政状況の変化による精査により事業を削除	数値指標への影響があるため、新指標3の目標値に加味した		
地域生活基盤施設	緑地、広場 支所前交流広場整備	42	A=0.3ha	—	—	関連する支所建て替えが延期となったため削除	数値指標への影響があるため、新指標3の目標値に加味した		
地域生活基盤施設	情報板、サイン整備	87	対象地区一帯、総合・誘導・方向案内、設置数 40箇所	25	対象地区一帯、総合・誘導・方向案内、設置数 17箇所	財政状況変化による精査により事業箇所を縮小、および再精査により事業費減	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	
高質空間形成施設	緑化施設等、道路修景整備	525	14路線 延長L=3920m、舗装修景整備 A=約12,000㎡、照明整備 側溝等	139	11路線 延長L=1,855m、舗装修景整備 A=約10,000㎡、照明整備 側溝等	関連する支所建て替えが延期となったため事業路線を縮減、及び精査による事業費減	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	
高質空間形成施設	橋梁修景整備	132	N=4橋、舗装美化、高欄、親柱、桁力バー、桁塗装等	18	N=2橋、舗装美化、高欄、親柱、桁力バー、桁塗装等	財政状況変化による精査により事業箇所を縮減、および再精査による事業費減	数値指標への影響があるため、新指標3の目標値に加味した	●	

高質空間形成施設	電線類地中化事業	—	—	154 L=720m、4路線、(市)足助宮町香嵐渓線、(市)足助西町中央線、(市)足助西町蔵ノ前線、(市)足助西町新町線	道路事業から高質空間形成施設への移動、再精査による事業費減	事業種別の変更のみであり、数値指標への影響は無い	●	
高次都市施設	観光交流センター	178	N=1軒、A=330㎡	—	土地所有者交渉難航のため事業実施延期による削除	数値指標への影響があるため、新指標3の目標値に加味した		
既存建造物活用事業	歴史的建造物保存活用事業	77	N=1軒、岡本邸(江戸末期) A=263㎡	24	N=1軒、岡本邸(江戸末期) A=263㎡	財政状況変化による事業精査により事業内容縮減、および再精査による事業費増	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●
都市再生交通拠点整備事業								
土地区画整理事業(都市再生)								
住宅市街地総合整備事業								

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への 影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	香嵐渓整備事業(香嵐渓一帯)	331	周遊道、足助屋敷前広場(A=0.2ha)、ライトアップ施設の向上、杉・椈の伐採・モミジ補植、萱葺き屋根の保存(N=2棟)、落石防止事業、電線類地中化	63	周遊道、足助屋敷前広場(A=0.2ha)、ライトアップ施設の向上、杉・椈の伐採・モミジ補植、萱葺き屋根の保存(N=2棟)、落石防止事業	財政状況変化による事業精査により一部H25以降に延期、および再精査による事業費減	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	
	山並景観整備事業	31	竹や針葉樹(杉、檜)に替えて広葉樹へ更新	11	竹や針葉樹(杉、檜)に替えて広葉樹へ更新	財政状況変化による事業精査により一部H25以降に延期のため縮減、及び事業費減	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	
	足助城整備事業	49	A=50ha、正面ゲート、法面修景(A=500m)、城内遊歩道(L=1000m、W=2m)、排水路整備及び谷への盛土等	3	A=50ha、正面ゲート、法面修景(A=500m)、城内遊歩道(L=1000m、W=2m)、排水路整備及び谷への盛土等	財政状況変化による事業精査により事業を縮小、再精査により事業費減	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	
	まちなみ整備事業	60	20軒、ファサード整備費用補助	6	20軒、ファサード整備費用補助	H23年度伝統的建造物群保存地区に指定され、修景補助の必要が無くなったため縮減及び再精査による事業費増	事業の変更のみであり、数値指標への影響は無い	●	
	構造物修景整備	60	法面・壁面修景、足助中学校法面修景(緑化)(A=1200m)、宮町立体駐車場修景(A=1000m)	1	1箇所、壁面修景、消防詰所修景(A=40m)	財政状況変化による事業精査により一部H25以降に延期し縮減、再精査により事業費減	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	
	公衆トイレ整備事業(西町第一駐車場)	21	1箇所、既存公衆トイレ撤去、バリアフリー対応公衆トイレ新設	1	1箇所、既存公衆トイレ撤去、バリアフリー対応公衆トイレ新設	財政状況変化による事業精査により一部H25以降に延期、および再精査により事業費増	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	
	まちづくり関連シンポジウム開催	6	まちづくり関連シンポジウム開催	1	まちづくり関連シンポジウム開催	財政状況変化による事業再精査により事業を縮小	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	
	地域活性化支援事業	4	地域主体のまちの活性化を目的とした新規地域主体イベント・行事等支援	2	地域主体のまちの活性化を目的とした新規地域主体イベント・行事等支援	財政状況変化による事業再精査により事業を縮小	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	
事業活用調査	重要伝統的建造物群保存地区指定調査	14	旧街道に残る伝統的建造物を調査	28	旧街道に残る伝統的建造物を調査	伝統的建造物展示のための詳細調査追加、再精査による事業費増	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	
	景観計画・ガイドライン策定	4	足助独自の景観計画・ガイドラインの策定	7	足助独自の景観計画・ガイドラインの策定	財政状況変化による事業精査により事業を縮小、および再精査による事業費増	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	
	まちづくり事業活用調査	8	都市再生整備計画モニタリング及び事後評価。大学との共同でまちづくり事業関係調査研究	4	都市再生整備計画モニタリング及び事後評価。大学との共同でまちづくり事業関係調査研究。	財政状況変化による事業精査により事業を縮小、および再精査による事業費減	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く		●
まちづくり 活動推進事業	まちづくり活動支援	4	まちづくり協議会やまちづくり部会等の企画・運営支援	2	まちづくり協議会やまちづくり部会等の企画・運営支援、まちの活性化に繋がる社会実験	財政状況変化による事業精査により事業を縮小、および再精査による事業費減	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く		●
	まちかど魅力アップ事業	4	旧街道の交差点部を魅力的に演出(まちかど修景社会実験)	-	-	他事業(豊田市単独事業)で実施したため削除	事業種別の変更のみであり、数値目標への影響は無い		
	まちづくりPR活動事業	29	マップ、ポスター、パンフレット等住民協働作成。観光PR用のビジュアルソフトの作成	3	マップ、ポスター、パンフレット等住民協働作成。観光PR用のビジュアルソフトの作成	財政状況変化による事業の精査により事業を縮小、および再精査による事業費減	数値指標への軽微な影響はあるが、数値指標は据え置く	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
下水道整備事業		88ha	4,036	4,036	H21～H25	H21～H25	円滑に進捗中	
防火水槽整備事業		7箇所	42	42	H21～H25	H21～H25	円滑に進捗中	
道路整備事業		市道足助宮町小原線外1路線 L=850m	141	65	H21～H25	H21～H25	円滑に進捗中	
立体駐車場整備事業		田町中央駐車場 総床A=4200㎡	未定	未定	H21～H25	H21～H25	円滑に進捗中	
空家空店舗整備事業		足助町中部地区 10軒	50	50	H21～H25	H21～H25	円滑に進捗中	
橋梁耐震補強		飯盛橋	10	10	H21～H25	H21～H25	円滑に進捗中	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		基準年度	目標年度					あり	なし	
指標1	街なみの満足度	%	地域住民満足度アンケート調査(足助中心市街部)、街なみに対する「満足」と「やや満足」の計が有効回答に占める割合			37.2	H18	51.5	H25	モニタリング	-	-	モニタリング		
										事後評価	確定見込み ●	51.5	事後評価	○	
指標2	旧足助町中心市街地内の歩行者数	人	観光シーズン中の断面通行量調査(休日9時~17時、8時間)、計測地点足助郵便局前の両方向断面歩行者数			970	H19	1,358	H25	モニタリング	1319	△	モニタリング		
										事後評価	確定見込み ●	2,147	事後評価	○	
指標3	足助中馬館の入館数(歴史的町並み地区内)	人/年	足助中馬館(歴史的町並み地区内)の年間入館数。文化財課統計資料による			30,057	H18	30,057	H25	モニタリング	20990	×	モニタリング		●
										事後評価	確定見込み ●	18,845	事後評価	×	
指標4										モニタリング			モニタリング		
										事後評価	確定見込み		事後評価		
指標5										モニタリング			モニタリング		
										事後評価	確定見込み		事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	地域住民満足度アンケート調査結果から見込み値を算出し、目標値と同値となったため達成度を○とした。	
指標2	歴史・文化・自然・景観を活かす事業により魅力的で個性的な町並みとなり、歩行者数が増加し、目標値を上回ったため、達成度を○とした。	
指標3	歴史・文化・自然・景観を活かす事業により魅力的で個性的な町並みとなり、歩行者数が増加したにも拘わらず、観光客数が従前値と目標値を下回ったため、達成度を×とした。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
				基準 年度		基準 年度				
その他の 数値指標1	旧街道(塩の道)道路景 観の取り組みに対する満 足度	%	地域住民満足度アンケート調査 (足助中心市街部)中質問(6)、 道路景観取り組みに対する「満 足」と「やや満足」の計が有効回 答に占める割合。					モニタリング	65.5	指標1「街並みの満足度」のう ち、特に道路景観の成果を具 体的に示す
								事後評価		
その他の 数値指標2	観光・商業等活力のある まちづくりに対する満足度	%	地域住民満足度アンケート調査 (足助中心市街部)中質問(4) 観光交流や商業振興と連携した 活力あるまちづくりに対する「満 足」と「やや満足」の計が有効回 答に占める割合。					モニタリング	76.9	指標3が目標を達成していない が、観光・商業等活力のあるま ちづくり(賑わいづくり)の取り組 みについて、住民の満足度が 高いことを説明する
								事後評価		
その他の 数値指標3								モニタリング		
								事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・まちづくり関連シンポジウムに協力した地域中学生等が、改めて足助の町並みについて理解を深め、自分達の町に誇りを持つようになった

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
中間評価・モニタリングを実施し事業の進捗状況や成果を把握し、事業を円滑に執行管理	予定どおり実施した	●	【実施頻度・実施時期】 1回 中間評価 H23年度 【実施結果】 ○ 定量化をする指標についてモニタリング値を計測し目標値の達成の見込みを検討した。また事業進捗を把握し、より円滑な事業推進方策を検討した。 ○ 事業効果をより正確に反映できる指標かどうか問題だと分かり、指標の変更等を行うものとした。 1) 旧指標3「足助地区における観光入り込み客数」は、香嵐溪の自然環境により大きく左右され整備効果が判断できないため、歴史的町並みの観光客数に指標を変更した 2) 旧指標4「生活環境の満足度」は、関連事業の下水道整備の供用開始予定が延期され整備効果が現れないため、指標から削除するものとした。	今後の他のまちづくりについても、可能な限りモニタリングを実施する
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
足助まちづくり推進協議会	予定どおり実施した	●	【実施頻度・実施時期】 H21～H25 開催回数 22回、延べ参加者数 618人 【実施結果】 足助まちづくり推進協議会の下に4つの部会(まちづくり部会、伝建部会、灯り検討委員会、町並み景観相談会)が足助香嵐溪地区住民主体のまちづくり計画及び実行を担った	足助まちづくり推進協議会による地域ぐるみのまちづくり活動を支援していく
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
官民学一体となったまちづくり	予定どおり実施した	●	【実施内容】 重要伝統的建築物群保存地区 選定記念シンポジウム(主催:足助まちづくり推進協議会、共催:豊田市、豊田市教育委員会、後援:愛知県教育委員会) 【実施頻度・実施時期】 1回 H23年8月6日 【実施結果】 大学まちづくり関係学識経験者講演、パネルディスカッション、大学研究室による展示、足助地域中学生・小学生・PTAによる展示等により住民のまちづくり意識がより一層高められた。	足助まちづくり推進協議会による地域ぐるみのまちづくり活動を支援していく
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
・まちづくり団体によるまちづくり活動(たんころりん、中馬のおひなさん、花かざり) ・支所を窓口とする行政と住民のパートナーシップを継続したまちづくり活動	予定どおり実施した	●	足助自治区、足助中央商店街組合、商工会、観光協会、たんころの会、及び、足助公社、足助交流館の官民からなる構成員により足助まちづくり推進協議会を設置した	足助まちづくり推進協議会による地域ぐるみのまちづくり活動を支援していく
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
足助香嵐溪地区都市再生整備計画事業庁内検討	都市整備課、足助支所、文化財課、消防本部総務課	事後評価シート原案公表前に関係各課へ回覧・確認(平成25年11月)	都市整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	指標の種別		指標1	指標2	その他数値指標1		その他数値指標2		
	指標名	指標改善への貢献度	街なみの満足度	旧足助町中心市街地内の歩行者数	旧街道(塩の道)道路景観の取り組みに対する満足度	観光・商業等活力のあるまちづくりに対する満足度	指標改善への貢献度	総合所見	
基幹事業	道路 市道足助旧小渡明川足助2号線	◎	自然の保全、歴史的町並みの保全修景と共に、防災や橋梁耐震化等も含めた生活環境を改善する総合的な事業に対する住民の満足度が確認できた。これにより、地域住民にとっても安全・安心で快適な生活感ある暮らしを感じるまちづくりを実現することができた。	◎	旧市街の歴史的な町並み景観づくりや来訪のための道路や駐車場整備等により、来訪者数は相当に増加し、歴史・文化・自然・景観を活かした、古くて新しいまちづくりを一步前進させることができた。	◎	市道足助旧小渡明川足助2号線、市道足助西町松栄町線等の道路事業に関連して、電線共同溝と共に路面の道路交通標示の削減等を実施し、街並みの中でも公共道路空間の景観づくりに取り組んだが、住民の高い満足度が得られた。これにより、歴史・文化・自然・景観を活かした、古くて新しいまちづくりを一步前進させることができた。	◎	指標3「足助中馬館の入館数(歴史的町並み地区内)」は減少し続けている一方で、賑わいのため、観光地の整備、来客利便のための駐車場整備と共に、個々の建物ファサード修景、住民によるまちづくり活動の支援を実施したため、住民の高い満足度が得られた。これにより、観光・商業と連繋した、活力ある共働まちづくりの目標を達成することができた。
	道路 市道足助西町松栄町線	◎		◎		◎			
	地域生活基盤施設 駐車場整備事業(宮町)	◎		◎		◎			
	地域生活基盤施設 情報板	◎		◎		◎			
	高質空間形成施設 緑化施設等、道路修景整備	◎		◎		◎			
	高質空間形成施設 橋梁修景整備	◎		◎		◎			
	高質空間形成施設 電線類地下埋設施設	◎		◎		◎			
既存建造物活用事業	◎	◎	◎						
提案事業	地域創造支援事業 香嵐溪整備事業(香嵐溪一帯)	◎	◎	○	○	○	○	○	
	地域創造支援事業 山並景観整備事業	◎	◎	○	○	○	○	○	
	地域創造支援事業 足助城整備事業	◎	◎	○	○	○	○	○	
	地域創造支援事業 まちなみ整備事業	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	地域創造支援事業 構造物修景整備	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	地域創造支援事業 公衆トイレ整備事業(西町第一駐車場)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	地域創造支援事業 まちづくり関連シンポジウム開催	◎	◎	○	○	○	○	○	
	地域創造支援事業 地域活性化支援事業	◎	◎	○	○	○	○	○	
	事業活用調査 重要伝統的建造物群保存地区指定調査	◎	◎	○	○	○	○	○	
	事業活用調査 景観計画・ガイドライン策定	◎	◎	○	○	○	○	○	
	事業活用調査 まちづくり事業活用調査	◎	◎	○	○	○	○	○	
まちづくり活動推進事業 まちづくり活動支援	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
まちづくり活動推進事業 まちづくりPR活動事業	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
関連事業	下水道整備事業	◎	◎	○	○	○	○	○	
	防火水槽整備事業	◎	◎	○	○	○	○	○	
	道路整備事業	◎	◎	○	○	○	○	○	
	立体駐車場整備事業 田町中央駐車場	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	空家空店舗整備事業	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	橋梁耐震補強	○	○	○	○	○	○	○	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	事業の実施や、シンポジウムにおいて足助の歴史、建物の詳しいことを、中学生も含む住民自らがが知るようになってきており、今後も継続したPRが効果を持続させると考えられる。	旧街道の歩行者数は、更に増えていくものと思われ、足助地区の活性化の指標として、今後も継続的に歩行者量の調査が必要である。	重伝建地区指定と関連した取り組みであるが、住民の満足度も高いため、全国の歴史的街並み保全の先駆けとすることも考えられる。	生活感のある「足助の塩の道」、香嵐溪の自然等保全改善に対する住民の満足度は高く、長い目で観光活性化へと繋がることが期待される。
-------	---	--	--	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3			指標〇			指標〇			指標〇				
指標名		足助中馬館の入館数(歴史的町並み地区内)													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類		
基幹事業	道路 市道足助旧小渡明川足助2号線	△	旧市街の歴史的な町並み景観づくりや来訪のための道路や駐車場整備等により、旧市街の歩行者数は増加し、観光客は増加している。しかし、観光客立ち寄り先としての足助中馬館の入館者数は下げ止まらず、目標値を達成できなかった。	Ⅲ											
	道路 市道足助西町松栄町線	△													
	地域生活基盤施設 駐車場整備事業(宮町)	—													
	地域生活基盤施設 情報板	△													
	高質空間形成施設 緑化施設等、道路修景整備	△													
	高質空間形成施設 橋梁修景整備	△													
	高質空間形成施設 電線類地下埋設施設	△													
	既存建造物活用事業	△													
提案事業	地域創造支援事業 香嵐溪整備事業(香嵐溪一帯)	—													
	地域創造支援事業 山並景観整備事業	—													
	地域創造支援事業 足助城整備事業	—													
	地域創造支援事業 まちなみ整備事業	△													
	地域創造支援事業 構造物修景整備	△													
	地域創造支援事業 公衆トイレ整備事業(西町第一駐車場)	△													
	地域創造支援事業 まちづくり関連シンポジウム開催	—													
	地域創造支援事業 地域活性化支援事業	△													
	事業活用調査 重要伝統的建造物群保存地区指定調査	—													
	事業活用調査 景観計画・ガイドライン策定	△													
	事業活用調査 まちづくり事業活用調査	—													
関連事業	まちづくり活動推進事業 まちづくり活動支援	△													
	まちづくり活動推進事業 まちづくりPR活動事業	△													
	下水道整備事業	—													
	防火水槽整備事業	—													
	道路整備事業	△													
	立体駐車場整備事業 田町中央駐車場	△													
空家空店舗整備事業	△														
橋梁耐震補強	△														

※目標未達成への影響度

- × ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたとと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

<p>改善の方針 (記入は必須)</p>	<p>町並み修景により、全体として観光入り込み客数は減少傾向を脱したと推察されるが、旧市街住民の生活感覚を生かしながら、立寄り先の魅力や箇所の増加等、観光活性化の方法を強化する。</p>
--------------------------	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
足助香嵐渓地区都市再生整備計画事業庁内検討	都市整備課、足助支所、文化財課、消防本部総務課	事後評価シート原案公表前に関係各課へ回覧・確認(平成25年11月)	都市整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
隣接する景勝地「香嵐渓」の賑わいと反し、年々減少する定住人口とそれに伴い衰退の一途を辿る足助の中心部。空き家や空き店舗が目立ち、かつて賑わいのあった街道沿いの雰囲気や当該地特有の街なみが喪失しつつあることが最大の課題である。	・空き家や空き店舗の活用を行い、改善した ・街道沿いの雰囲気や当該地特有の街なみについて、生活を活かしたままの保全を進めることができた	・空き家や空き店舗が残っており、活用が継続的に必要である	
・足助地区の人口は、昭和53年の3,094人が平成19年には1,901人と38.5%減少し、また、高齢化率は平成2年の19.4%が平成19年度には35.8%と20%近く上昇し、人口減少・高齢化率ともに進行しており、地域コミュニティの衰退による観光機能や景観維持の限界が近づいている。	・シンポジウムや地区住民の主体的な取り組みにより、若い世代の足助地区の良さ、観光、景観維持に対する理解が浸透しつつある	・観光機能や景観維持に関して、現状で十分な体制が構築されている訳では無い	
・足助地区への平成7年度の観光客数は205万人、その後200万人台を維持してきたが、平成19年度は169万人と年々減少傾向に転じており、今後、周年型の観光地としての魅力付けが必要である。	・香嵐渓の自然景観、足助城の修復、旧街道の街並み保全により、観光に繋がる一定の魅力化を前進させることができた	・周年型観光へ向けた夏・冬季の魅力づくり ・年間行事予定が分かる案内方法、高速道路網整備に対応したPR圏域拡大 ・高齢者や主婦層が魅力を感じる飲食物の提供 ・観光客が利用できるトイレの整備 ・資料館(足助中馬館)の所蔵物を活かした魅力的な展示	
・町家が連担したかつての風景が壊れることが懸念されるなか、町並みとして面的に整備を行うことで「足助らしさ」を次代へ受け継ぎ、住んでいる人が誇りをもてる町へと再生する必要がある。	・生きた生活のある、塩の道の町家・町並み保全を実施し、一歩前進させた ・住民の理解が深まり、重伝建への申し込みが増えつつある ・シンポジウムや住民の主体的な活動により、若い世代も含め、足助に誇りを持ちつつある	・まちづくり協議会活動等、住民主体の活動の拡大や充実	
・公園や広場の不足、下水道などインフラ整備が遅れ、また安全な歩行者・車両動線が確保されていない事から、これらを整備することによって生活環境を改善する必要がある。	・公園、広場、下水道等生活環境の整備、老朽化した橋梁の再整備等により、生活環境を改善した	田町の消防小屋が危険な箇所建っており、改善が必要である	
・香嵐渓を訪れる観光客が歴史的な町並みへと足を延ばす人が少ない事から、香嵐渓から町並みへ来街者の誘導を積極的に行う事で一層の地域振興を図る必要がある。	・旧市街における町並み保全と共に、駐車場整備、案内標識設置等により、来街者の誘導に資する環境を整備した	・旧市街、塩の道における重伝建保全の具体化と活用の推進 ・旧市街、塩の道における足助地区住民によるイベント等の自主的な検討 ・街道の町並み周辺にバス利用可能な大きな駐車場が今後必要である	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	・空き家や空き店舗の活用 ・街道沿いの雰囲気や当該地特有の街なみの保全	・住民体制による空き家・空き店舗活用を継続する ・景観ガイドラインに基づく修繕や活用を図る	空家空店舗整備事業
	・若い世代に、足助地区の良さ、観光、景観維持に対する理解が浸透	・まちづくり協議会活動を継続し、必要に応じて支援する ・町並みに関する啓蒙を推進する	
	・香嵐溪の自然景観、足助城の修復、旧街道の街並み保全により、観光に繋がる一定の魅力化を前進 ・住民の理解が深まり、重伝建への申し込みが増えつつある	塩の道の歴史的町並み、重要伝統的建造物群保存地区のPRを推進する	
	・生きた生活のある、塩の道の町家・町並み保全の実施 ・シンポジウムや住民の主体的な活動による、若い世代も含めた誇り	・まちづくり協議会活動を継続し、必要に応じて支援する ・町並みに関する啓蒙を推進する	
	生活環境の改善	・整備された公園、広場、下水道、橋梁等を円滑に維持管理する	
	町並み保全、駐車場整備、案内標識設置等による来街環境の整備	・整備された歴史的町並みについて、駐車場、案内標識も含めてPRを推進する	

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・空き家や空き店舗が残っており、活用が継続的に必要である	空き家や空き店舗活用事業を継続する	空家空店舗整備事業
	・観光機能や景観維持に関して、現状で十分な体制が構築されている訳では無い	まちづくり協議会等住民により、観光、景観維持の継続、強化方策を検討していく	景観ガイドラインの普及
	・周年型観光へ向けた夏・冬季の魅力づくり ・年間行事予定が分かる案内方法、高速道路路網整備に対応したPR圏域拡大 ・高齢者や主婦層が魅力を感じる飲食物の提供 ・観光客が利用できるトイレの整備 ・資料館(足助中馬館)の所蔵物を活かした魅力的な展示	同上	まちづくり協議会、観光協会等による改善方策の検討
	・まちづくり協議会活動等、住民主体の活動の拡大や充実	同上	ガイドボランティア等強化の検討
	田町の消防小屋が危険な箇所建っており、改善が必要である	安全で安心なまちづくりについて、特に危険箇所の改善を検討していく	
	・旧市街、塩の道における重伝建保全の具体化と活用の推進 ・旧市街、塩の道における足助地区住民によるイベント等の自主的な検討	重要伝統的建造物群保存地区の活用の方策、旧市街への観光客誘導や活性化の方策について、まちづくり協議会等住民による検討を推進する	
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	街道の町並み周辺にバス利用可能な大きな駐車場が今後必要である	同上

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

--

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	街なみの満足度	%	37.2	H18	51.5	H25	確定	51.5	○	あり	→	H26年11月	地域住民に対する満足度調査(アンケートによる)により、街なみに対する「満足」と「やや満足」の計が有効回答に占める割合	
							見込み ●							
指標2	旧足助町中心市街地内の歩行者数	人	970	H19	1,358	H25	確定	2,147	○	あり	→	H26年11月	観光シーズン中の断面通行量調査(休日9時~17時、8時間)により、計測地点足助郵便局前の両方向断面歩行者数	
							見込み ●							
指標3	歴史的町並みの観光客数	人/年	30,057	H18	30,057	H25	確定	18,845	×	あり ●	→	H26年7月	文化財課統計資料から、平成25年度における足助中馬館の年間入館数	
							見込み ●							
指標4				H		H	確定			あり	→			
指標5				H		H	確定			あり	→			
							見込み		なし					
その他の数値指標1	旧街道(塩の道)道路景観の取り組みに対する満足度	%		H			確定	65.5			→	H26年11月	地域住民満足度アンケート調査(足助中心市街部)中質問(6)、道路景観取り組みに対する「満足」と「やや満足」の計が有効回答に占める割合	
その他の数値指標2	観光・商業等活力のあるまちづくりに対する満足度	%		H			確定	76.9			→	H26年11月	地域住民満足度アンケート調査(足助中心市街部)中質問(4)観光交流や商業振興と連携した活力あるまちづくりに対する「満足」と「やや満足」の計が有効回答に占める割合	
							見込み ●							
その他の数値指標3				H			確定				→			
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	指標1、2共に、それぞれ町並みの改善、旧市街への観光客を含む歩行者の増加が達成されたことを示す結果となった	他地区の計画においても、適切な数値目標の設定が好ましい
	うまくいかなかった点	観光活性化は、指標3として中馬館入館者数を設定したが、旧街道の歩行者数の増加にも拘わらず減少を続けており、減少を食い止めていない結果となってしまった	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・小目標1～3に対応し、それぞれの数値目標を設定し、事業の効果を計測できた ・事後評価にあたり都市再生整備計画事業に関する住民アンケートを実施し、各事業に対する満足度を計測し、事業の効果を計測できた	小目標、事業の構成とそれに応じた数値目標の設定が必要である
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・まちづくり協議会を母体とする住民活動を支援し、公共施設整備事業以外についてまちづくり活動を推進できた ・合わせて住民・学の協同として、まちづくりシンポジウムを開催し、広く若い世代も含めて「足助のまちづくり」の意義を浸透することができた	足助地区では、基盤整備の成果を、住民によるソフトなまちづくり活動に引き継いでいくことが重要である
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	H23年度中間モニタリングを実施したことにより、事業の進捗に応じた適切な数値指標とする等、円滑な事業管理とすることができた	中間モニタリングは、適切な事業管理のために必要である
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市HPIにおける原案掲載	平成25年11月27日～12月6日	平成25年11月27日～12月6日	書類郵送・持参、ファックス、メールによる受付	都市整備課(都市再生整備計画事業主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	市報による公表の案内				
説明会・ワークショップ					
その他	窓口における原案閲覧	平成25年11月27日～12月6日	平成25年11月27日～12月6日		

住民の意見	なし
-------	----

(6) 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	豊田工業高等専門学校 野田宏治	平成25年12月20日(金)	都市整備課	まちづくり交付金評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	足助自治区長 小野忠 足助まちづくり推進協議会 まちづくり部会長 近藤康次				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	特になし
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> 指標3「足助中馬館の入館数」は、工事中であったため入館利用者が減った。その他、展示資料の魅力が乏しい、他に魅力あるものができた等の原因が考えられる。 指標3「足助中馬館の入館数」の観光は、バス利用客ではなく自家用車客が増えているのではないかと。また、バスの台数が減っている。お伊勢参りの影響と考えられる。
	実施過程の評価	<ul style="list-style-type: none"> シンポジウムにより歴史、町並み等に理解が深まったことは評価に値する。
	効果発現要因の整理	<ul style="list-style-type: none"> 観光客は、食べものにこだわる高齢者の方や主婦の方が多く、その課題が残っている。山の中までインスタントなのかという不評があった。また、トイレ不足も指摘されている。 良かった点としては、住民一同で取り組んだおひなさんが評価されている。QRコードを使った展示説明があると良い。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案の公表は妥当と確認した
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当に進められたと確認した

今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 香嵐渓には駐車場があるが、街道の町並みまで来ないのはバスを駐める大きな駐車場が無いからである。今後、大きな駐車場が必要である。 ・ 期間中の途中で消えてしまった事業がある。新田町のところは山車が電線に引っかかってしまうので、実施していない国道までの区間も、今後、電柱の地下埋設をやって欲しい。 ・ 工事期間中では地元住民は文句があったが、完成後は綺麗になって、住民も満足している。 ・ 観光協会で、年間を通じて足助の話題が繋がるようなPR方法をとる必要がある。 ・ 高速道路が開通し、浜松あたりから来れるようになっているので、浜松でPRしたら良い。 ・ 今後の改善点では、田町の消防小屋が危険な箇所に建っていて改善が必要である。安全・安心のまちづくりとして、記載して欲しい。 ・ 町並み等に理解が深まったその後に何をやっていくのかが重要である。 ・ 足助のまちづくり部会では、まちづくり宣言にあげた、足助の魅力を住み継ぐまちづくり、足助を誇る人を育てるまちづくり、「お祭り」が似合うまちづくりの3つを柱にして地元の活動を進めるつもりである。この中で、足助の魅力を住み継ぐまちづくりとは、具体的には何をすれば良いのか、まちづくり協議会で検討中である。 ・ 絵葉書を配るなどを実施したら良いのではないか。 ・ 重伝建については、年間4戸、来年度以降では6戸の申し込みが出てきている。屋根を治そうというところから住民の理解が進んできている。 ・ ごりやく巡りは、子供達による神社仏閣の案内をやっており、地図も作ってもらっている。ボランティアガイド等のソフト面が重要である。 ・ 資料館には、倉庫にもっと展示できる資料がある。これを活かした魅力づくりが課題である。 ・ 足助の地元が、地元の考えを持って、まちづくりを継続しようとしていることを、記載してほしい。
	フォローアップ	特になし
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当と確認した
その他	特になし	

※1 審議事項の詳細は「都市再生整備計画事業評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第4回変更)

あすけこうらんけいちく
足助香嵐溪地区

あいちけん とよたし
愛知県 豊田市

平成25年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	豊田市	地区名	足助香嵐渓地区	面積	540ha
計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度				

目標

- 大目標:『自然と歴史を受け継ぎ、暮らしの香り漂う生活空間の創造』
- 目標1:歴史・文化・自然・景観を活かした、古くて新しいまちづくり
 - 目標2:安全・安心で快適な、生活感ある暮らしを感じるまちづくり
 - 目標3:観光・商業と連携した、活力ある共働まちづくり

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

足助地区は、愛知県の北東部の山間部に位置し、全国的に有名な紅葉の名勝「香嵐渓」と、『美しい日本の歴史的風土100選』に選ばれた町並みを有する、都市近郊型の農山村である。

- 江戸時代には、三河湾で産出した塩などの生活物資を信州へ馬で運ぶ中馬街道(塩の道)の宿場町として栄えていた。しかし、明治時代末期に中央線の開通に伴い輸送手段が変わり、物流の変化とともに足助の位置づけは大きく変化し、東加茂郡の中心地として存続してきた。
- 足助川を挟んで2Km余り続く町並みは、平入りと妻入りの塗籠造りの町家や土蔵が連なる昔ながらの雰囲気をもも残し、周辺の山並みや足助川の清流と溶け合い、落ち着いた情感を醸し出している。
- 紅葉で有名な「香嵐渓」には、観光シーズンに多くの来訪者が訪れるが、隣接する歴史的町並みまで足をのばす人は少なく、まちなかの商店街は閑散としている。
- 昭和50年に発足した「足助の町並みを守る会」の活動は、第1回全国町並みゼミの足助開催を機に、町並み保存に対する住民の気運を一気に高め、町屋の新・増改築に当たっては町並み景観に配慮する意識を浸透させた。
- 旧足助町時代には、「街並み環境整備事業」を導入し(平成5年度)、「足助まちづくりの会」が主体となり、「足助の街づくりに関する要綱」、「足助のまちづくり規範」を作成し、町屋等の修景補助を行ってきたが、平成15年度で補助事業は終了しており、以後老朽化が進む町屋を現代風の家屋に建替える住民もあり、連担した町並みの風景が壊れることが懸念されている。
- 当地区での住民活動は活発で、周年型の観光地を目指し、紅葉シーズン以外でも楽しんで来街して頂くため、春には「中馬のおひなさん」(雛人形を道路に向けて飾る)や夏至や盆に「たんころりん」(竹を編んだ灯笼を道沿いに並べる)などのイベントを企画している。これらの情報はインターネットで発信するとともに、地元新聞等でも取り上げられ広く地域に知られている。
- 当地区内にはまとまった広さの公園や広場もなく、また下水道などインフラ整備の遅れや安全な歩行者・車両動線も少なく、生活環境の改善が求められている。
- 平成18年度に実施した住民アンケートによると、町並みの景観に対する満足度は37.1%と低く、景観の維持管理に関して懸念が表れている。反面、歴史的な町並みを保存していきたいという意見が50%を超え、町並みに対する意識は高い。
- また、生活環境については、「排水溝の異臭」、「川の水環境」、「広場・公園の状況」の全ての項目で不満を感じており、70%以上が整備の必要性を唱えている。
- その他、交通については60%以上が歩道整備の必要性を訴え、防災については、川へ降りる消防用道路及び防火水槽の整備を望む声が全体の70%以上であった。
- 新市発足に伴い、市と市民の共働による取組みから、当地区ではまちづくり推進協議会・まちづくり部会・伝建部会を立ち上げ、ワークショップ開催等による地域住民の意見を反映させたまちづくり計画を進めている。都市再生整備計画策定に当たっては、関係17課を中心とした庁内組織と共に、これら一連の活動を通じ、計画をとりまとめた。

課題

隣接する景勝地「香嵐渓」の賑わいと反し、年々減少する定住人口とそれに伴い衰退の一途を辿る足助の中心部。空き家や空き店舗が目立ち、かつて賑わいのあった街道沿いの雰囲気や当該地特有の街なみが喪失しつつあることが最大の課題である。

- 足助地区の人口は、昭和53年の3,094人が平成19年には1,901人と38.5%減少し、また、高齢化率は平成2年の19.4%が平成19年度には35.8%と20%近く上昇し、人口減少・高齢化率ともに進行しており、地域コミュニティの衰退による観光機能や景観維持の限界が近づいている。
- 足助地区への平成7年度の観光客数は205万人、その後200万人台を維持してきたが、平成19年度は169万人と年々減少傾向に転じており、今後、周年型の観光地としての魅力付けが必要である。
- 町家が連担したかつての風景が壊れることが懸念されるなか、町並みとして目的に整備を行うことで「足助らしさ」を次代へ受け継ぎ、住んでいる人が誇りをもてる町へと再生する必要がある。
- 公園や広場の不足、下水道などインフラ整備が遅れ、また安全な歩行者・車両動線が確保されていない事から、これらを整備することによって生活環境を改善する必要がある。
- 香嵐渓を訪れる観光客が歴史的な町並みへと足を延ばす人が少ない事から、香嵐渓から町並みへ来街者の誘導を積極的に行う事で一層の地域振興を図る必要がある。

将来ビジョン(中長期)

平成17年4月に豊田市と足助町ほか5町村が合併し、総人口は約41万人、総面積は918.47km²、県下最大の面積を有する市となった(合併当時)。平成20年3月に第7次豊田市総合計画(計画期間:H20~29)が策定され、当計画では本市の将来都市像を「人が輝き環境にやさしく躍進するまち・とよた」と設定している。また、足助支所周辺を「複合地域核」として位置付け、観光振興、都市と農山村の共生、定住など山村振興対策の中枢を担うための機能配置を推進するとともに、過疎山村地域における医療サービスや複合的行政サービス機能の維持確保を図ることを目的とし、重点戦略プログラム(前期実践計画期間内において特に重点的・戦略的に取り組む施策)のひとつである「農山村地域の再生・活性化」の具体的な取り組みとして、足助地区まちづくり事業などが計画されている。

- 平成19年3月に策定された「とよたおいでんプラン(豊田市観光交流基本計画)」の重点プロジェクトには、香嵐渓一帯の魅力向上事業として①香嵐渓の保全、②香嵐渓と歴史的な町並み景観形成事業、③アメニティ向上事業の3つを提案している。また、地区別の観光交流振興計画においては、足助地区の将来像を「古くて新しい、地域資源がきらり輝く紅葉(もみじ)の山里 あすけ」と位置づけ、新緑と紅葉、山桜の彩り映える香嵐渓、四季折々の風物詩とロマンの香り漂う中馬街道のまち、及び農ある暮らしと歴史や自然を満喫できるのどかな美しい山里、を目標としている。
- 平成20年3月に策定された豊田市景観基本計画では、本計画における足助地区の位置づけは、歴史的景観を有する地区として重点的に施策を展開すべき最も重要な地区である「景観重点地区」に指定を予定している。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
1.街なみの満足度	%	地域住民に対する満足度調査(アンケートによる)	住民の満足度(「満足」と「やや満足」の割合)の増加を目指す。	37.2	51.5
2.旧足助町中心市街地内の歩行者数	人	休日の歩行者数(断面通行量調査による)	街並み空間整備、誘導手法により歩行者数の増加を目指す。 (足助郵便局前における観光シーズン中の9~17時両方向断面通行量合計)	970	1,358
3.歴史的町並みの観光客数	人/年	足助中馬館の入館数(歴史的町並み地区内)	減少傾向である歴史的町並みへの観光客数に歯止めをかけ、現状維持を目指す。	30,057	30,057

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1:【地域資源(歴史的資産・自然・景観)の保存・活用】</p> <p>山並みや河川といった自然、歴史的な町並みや景観、祭りなどの伝統文化を次世代に受け継ぐと共に、全国的に有名な香嵐渓等の地域資源を活かした足助らしい景観に配慮したまちづくりを進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道路(基幹/電線共同溝整備) ・高質空間形成施設(基幹/緑化施設等、電線類地下埋設施設) ・既存建造物活用事業(基幹/歴史的建造物保存活用事業) ・地域創造支援事業(提案/香嵐渓整備事業、山並景観整備事業、足助城整備事業、まちなみ整備事業、構造物修景整備) ・事業活用調査(提案/重要伝統的建造物郡保存地区指定調査、景観計画・ガイドライン策定、まちづくり事業活用調査)
<p>整備方針2:【暮らし環境整備】</p> <p>大人から子供まで、安全・安心・快適に暮らすために必要な住環境整備を進めることにより、生活感ある暮らしを感じる生きた「まち」を維持します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(基幹/駐車場整備事業、緑地・広場) ・高質空間形成施設(基幹/緑化施設等) ・地域創造支援事業(提案/地域活性化支援事業) ・下水道事業(関連/特定環境保全公共下水道事業) ・防火水槽整備事業(関連/防火水槽整備) ・道路整備(関連/市道整備) ・橋梁耐震事業(関連/橋梁耐震補強)
<p>整備方針3:【活力ある共働まちづくり】</p> <p>観光交流や商業振興と連携した活力あるまちづくりを進めると共に、足助を育んできた歴史・自然と繋がりがあう、賑わいある空間づくりを共働で進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(基幹/情報板、緑地・広場) ・既存建造物活用事業(基幹/歴史的建造物保存活用事業) ・地域創造支援事業(提案/公衆トイレ整備、まちづくり関連シンポジウム開催) ・まちづくり活動推進事業(提案/まちづくり活動支援、まちづくりPR活動事業) ・空屋・空店舗活用事業(関連/空屋・空店舗整備) ・立体駐車場整備事業(関連/中央駐車場整備)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○足助の景観保全、良好な景観形成及び歴史的まちなみの保全活用を図るための方策について <ul style="list-style-type: none"> ・重要伝統的建造物郡保存地区の指定を予定している。 ・景観重点地区の指定を予定している。 ・まちづくりの拠点となる歴史建造物(鈴木邸等)を調査、研究し保存活用を目指していく。 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 <ul style="list-style-type: none"> まちづくり団体による、まちづくり活動(たんころりん、中馬のおひなさん、花かざり等)を継続すると共に、支所を窓口とする行政と住民のパートナーシップを継続し、まちづくり活動を行っていく。 ○交付期間中の計画の管理について <ul style="list-style-type: none"> 交付期間中において各事業を円滑に進め、目標に向けた確実な効果を上げるために、地域と行政が共働して準備や整備の進め方の改善などを行う協議会を実施するとともに、中間評価・モニタリングを実施し事業の進捗状況や成果を把握し、事業の円滑な執行管理を行う。 ○大学との連携について <ul style="list-style-type: none"> 東京大学西村教授をまちづくり事業アドバイザーとして助言等を受けるとともに、学生とも共同で調査研究・社会実験を行い、官民学一体となったまちづくりを行っていく。 	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	838.2	交付限度額	335.2	国費率	0.4
---------	-------	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体	交付期間内		交付対象	
事業	細項目					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度	事業費	事業費	うち官負担分		うち民負担分
道路	電線共同溝	市道足助旧小渡明川足助2号線	豊田市	直	L=1,000m	H21	H24	H21	H24	246	246	246	246	
		市道足助西町松栄線	豊田市	直	L=70m	H23	H23	H23	H23	54	54	54	54	
公園														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設	駐車場整備事業	駐車場整備(宮町)	豊田市	直	A=0.8ha	H22	H23	H22	H23	46	46	46	46	
		情報板	豊田市	直	対象地区一帯	H21	H25	H21	H25	31	31	31	31	
高質空間形成施設	緑化施設等	道路修景整備	豊田市	直	L=1,820m	H23	H25	H23	H25	133	133	133	133	
		橋梁修景整備	豊田市	直	N=2橋	H24	H25	H24	H25	18	18	18	18	
電線類地下埋設施設		電線類地中化事業	豊田市	直	L=720m	H22	H23	H22	H23	154	154	154	154	
高次都市施設														
既存建造物活用事業		歴史的建造物保存活用事業	個人	間	N=1軒	H21	H21	H21	H21	24	24	24	24	
都市再生交通拠点整備事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
人にやさしいまちづくり事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										706	706	706	0	706
…A														
提案事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体	交付期間内		交付対象	
事業	細項目					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度	事業費	事業費	うち官負担分		うち民負担分
地域創造支援事業	香嵐渓整備事業	香嵐渓一帯	豊田市	直	—	H21	H24	H21	H24	63	63	63	63	
	山並景観整備事業	—	豊田市	直	A=50ha	H22	H22	H22	H22	11	11	11	11	
	足助城整備事業	足助城	豊田市	直	—	H21	H23	H21	H23	3	3	3	3	
	まちなみ整備事業	—	個人	間	20軒	H22	H23	H22	H23	6	6	6	6	
	構造物修景整備	—	豊田市	直	1箇所	H23	H23	H23	H23	1	1	1	1	
	公衆トイレ整備事業	西町第一駐車場	豊田市	直	1箇所	H21	H21	H21	H21	1	1	1	1	
	まちづくり関連シンポジウム開催	シンポジウム開催	豊田市	直	—	H23	H23	H23	H23	1	1	1	1	
	地域活性化支援事業	—	豊田市	直	—	H22	H23	H22	H23	2	2	2	2	
事業活用調査	重要伝統的建造物群保存地区指定調査	—	豊田市	直	—	H21	H24	H21	H24	28	28	28	28	
	景観計画・ガイドライン策定	—	豊田市	直	—	H21	H22	H21	H22	7	7	7	7	
	まちづくり事業活用調査	—	豊田市	直	—	H23	H25	H23	H25	4	4	4	4	
まちづくり活動推進事業	まちづくり活動支援	—	豊田市	直	—	H21	H25	H21	H25	2	2	2	2	
	まちづくりPR活動事業	—	豊田市	直	—	H22	H22	H22	H22	3	3	3	3	
合計										132	132	132	0	132
												合計(A+B)	838	
…B														

